

不撓不屈

ぶとうふくつ

光を一方方向にしか通さない偏光板。特定の方向に入る光だけを通し、それ以外は通さない。余分な光によって見えなかった現象を映し出す役割を持つ偏光板の開発・製造・販売を手がけるのがルケオだ。50年の歴史の中で会長兼最高経営責任者(CEO)の吉村健正は、下請け企業からの脱却が必要と考え、他社との差別化、自社ブランドの開発など光学部品会社から光学装置メーカーへと転換させた。

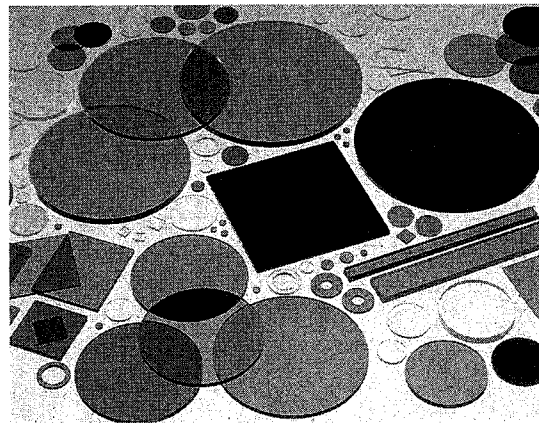
40人以下の企業

都市型 目指す

① 「都市型小企業を目指す」と。1984年の社長就任時、吉村は従業員を前に宣言した。都市型小企業とは、地価や人件費の高い都市部で顔を突きあわせたコミュニケーションを図り、常に新しい情報に触れながら事業を展開する。従業員40人以下と小回りの利く体制で、さまざまな環境変化に柔軟に対応する。企業として戦略を立てる。ヘルアップを図り、下請け町工場からの脱却を目指すものだ。

ルケオが本社を構える

東京都板橋区は、レンズやプリズム、カメラなどの光学産業が盛んだ。同社が製造する偏光板は、一般的には偏光フィルターとして一眼レフカメラに使われている。撮影時に水面やショーウィンドーのガラス面の反射など余分な光となるまぶしさを防ぐ効果があり、スキ



ルケオの成長を支えてきた偏光板や波長板

以下に抑え、厳密に守ってきた。

「例えば学校のクラスも40人が一つの基準だ。変に従業員がグループ化して割れないし、管理者として目が行き届くので、製品の品質も確保しやすい。実際に経営すると、父の教えは理にかなっていった」と吉村。父の正義がこの教えを説いたの

父の教え
父の教えは理にかなっていったと吉村。父の正義がこの教えを説いたの

父の教え
父の教えは理にかなっていったと吉村。父の正義がこの教えを説いたの

脱下請け 光学装置開発に力

「技術、技能レベルを

付加価値を高く

「技術、技能レベルを

常に上げたい。上げない村が社長を引き継いだを担う技術部をはじめ、と生きてはいけけない」。後、イメージアップとコ 生産部、営業、総務と少 吉村はより付加価値の高 ーポートアイデンティ 数精鋭で事業を展開す い仕事を獲得していった ティーの確立のため、91 億5000万円▽URL 従い、従業員の数を40人 ▽所在地▽東京都板橋区 大山金井町30の9、03 3956・4111▽ 社長▽吉村健太郎氏▽従 業員▽37人▽資本金▽4 000万円▽売上高▽4 億5000万円▽URL

不撓不屈

ぶたうぶくつ

割れないレンズ

ルケオ(東京都板橋区)会長兼最高経営責任者(CEO)の吉村健正の父・正義は、1966年に明照光器(現ルケオ)を設立する以前、暁光学ガラス加工所(後に暁光学工業)を47年に創業した。凹レンズ、凸レンズを作るレンズプレスを手がけた。レンズを加工する際、歪みの入らない徐冷技術を日本で初めて開

ルケオ

②

会社解散、再び起業

発、特許を取得した。歪みがなくゆがまないため、割れないレンズとして高品質のレンズ加工を可能にした。高度経済成長の波に乗り、大手カメラメーカーの下請けとして、東京都板橋区や埼玉県鶴ヶ島市(現鶴ヶ島市)に工場や子会社を展開。一時は250人の従業員を抱え、関東で最大規模の大手カメラメーカーの協力会社に成長した。

仕事が終わるが、華やかな時代は

長くは続かなかった。64年の東京五輪後の不況で、カメラメーカーから仕事が突然止まってしまった。確証はなかったが、配送トラックの運転手がレンズプレスの製造

目が行き届く経営を指向



都市型小企業を目指したルケオ会長兼CEOの吉村健正

当時高校生だった吉村は、運転で大きな正義の代わりを免許を取り、仕事を手伝った。不慣れた運転技術だったが自宅と鶴ヶ島の工場を往復した。事業を続けられ続けた。正義は自宅の床に針金で縛ってそっとした。正義は知り合いだった個人の研究者に相談し、偏光板の製造を事業化した。初期投資がからず、将来性があると判断し、偏光板製造を選択した」と吉村は振り返る。

技術情報をメーカーに渡さない状況に陥っていた。「父は特許を取って業界ナンバーワンになった。しかし当時は100%の下請け企業。取引先がいくつもあり、出入りに生まれた。」「父は特許を取って業界ナンバーワンになった。しかし当時は100%の下請け企業。取引先がいくつもあり、出入りに生まれた。」「父は特許を取って業界ナンバーワンになった。しかし当時は100%の下請け企業。取引先がいくつもあり、出入りに生まれた。」

た。暁光学工業をたたんだ後、すぐに明照光器を創業した。自宅の庭先に掘った小屋のような小さな工場を建て、そこで偏光板を製造する。暁光学工業の再出発であり、ルケオの始まりだった。正義は知り合いだった個人の研究者に相談し、偏光板の製造を事業化した。初期投資がからず、将来性があると判断し、偏光板製造を選択した」と吉村は振り返る。ルケオ製の偏光板は一眼レフカメラに採用され、その品質の高さが評判を呼び、ルケオの主力製品となった。(敬称略)

不撓不屈

値下げを拒否

「それなら取引をやめます」。1984年に明照光器(現ルケオ、東京都板橋区)の社長に就任した現会長兼最高経営責任者(CEO)の吉村健正は、数年後のある日、取引先のカメラ商社の要求をきっぱりと断った。当時は円高が加速。同社も円の値上がり分だけ、偏光板の値下げに応じ、低価格競争に巻き込まれた。

ルケオ

③

高付加価値の仕事

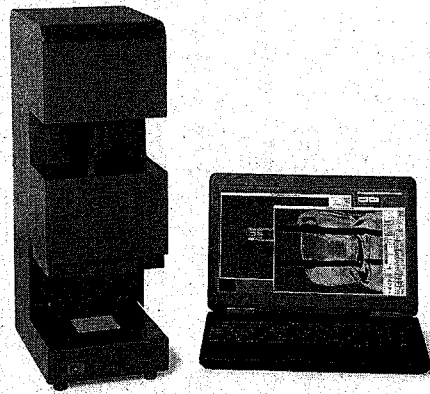
商社は「品質を落としつつた吉村は翌年、中央大でも安いものを作つてほしい」と要請した。偏光フィルターを学んだ。光ファイターを研磨せず、就職は完全な売り手市場に工程を減らし、コストで、大手にも入社できたダウンする内容だった。だが、品質を落とすとして、取引はしたくなかつた。同時に下請け体質から脱却しなければ後がないと考へた。父・正義の「暁光工業が下請けとして苦勞した経験を目の当たりにしていたからだ。」

偏光板が好評

66年に正義は暁光工業を清算し、明照光器を創業した。高校3年生だ

念願の自社ブランド製品化

ウ素を入れ、A4サイズに切れる寸前まで伸ばす。透明なポリビニルアルコールを浸し、柔らかくしたところを手で伸ばす。「伸ばすにはこつも手がけた当時の作業をがいる。両手の力で広懐かしむ。



偏光板の技術を応用し、歪検査器など技術力の高い製品を生み出す

ラ商社を通して海外に輸出。徐々に売り上げを伸ばしていった。

突然の連絡

商社の要求を断つた吉村だが、次の一手があるわけではなかった。窮地に追い詰められ、取引先の開拓に奔走した。そんな折、サンプルを送つて1年間も音沙汰がなかつた。

その後、偏光フィルターなどの技術を応用して歪検査測定器も開発した。透明なガラスやプラスチックの歪みを測定する機器で、ガラス素材に特殊な偏光フィルターを通すことで、歪みを測定する。

偏光板のカラーバランスを取るために独自の配合で染料を入れ、良質な偏光板を作った。偏光板の納入が決まったのが高く、自然な発色が出ると評判になり、カメラの波長板で性能の良いも

たオリンパス光学工業(現オリンパス)から突然是、連絡があった。偏光板の納入が決まったの。さらに「顕微鏡向け製品に成功した。」

(敬称略)

不撓不屈

ぶとうぶくつ

初めて相談

「子どものころは父が会社の社長だとは思わなかった」。ルケオ(東京都板橋区)現社長の吉村健太郎はこう振り返る。父で現会長兼最高経営責任者(CEO)の吉村健止は家庭に仕事を一切持ち込まなかった。健太郎も会社を継ぐ気はまったくなく、陸上競技の400メートルのめり込み、国際武道大学体育学部に進学。車が好きで、

事業継承で未来へ

卒業後は自動車販売会社に就職した。だが、仕事がつまみかず壁にぶつかった。父に初めて相談すると、父も初めてルケオの仕事について説明し、入社を促した。結局、1年でその会社を辞め、父の紹介で地元・板橋区の文具メーカーで3年間修行した。何か問題が起きた時に瞬時にどう判断するか、社長のそばで学べた。健太郎は話す。その後、中小企業大学校で10カ月間、経営を学んだ。

品質・納期守る
これらの経験は、今の

社長に就任。改善を提案

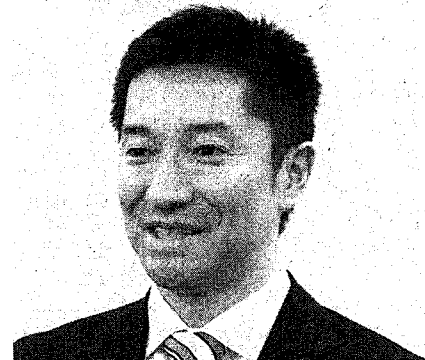
2013年に健太郎は

努力を続ける。それが、

化に対応できないことも

会長の吉村は9月、從

光学技術活躍の場広げ深化



ルケオの50年を継承し、新たな歴史を築く吉村健太郎社長

少人数で付加価値の高い製品を一枚に集約し、観測効率世に送り出す原動力になっている。

新しい価値創造

例えば京都大学の天文台の太陽観測用大望遠鏡に採用された超広帯域波長板。通常、波長帯域に合わせた複数の波長板を使い分けて観測するが、波長板を入れ替える。さらに光学技術を応用し、多様な分野に活躍の場を広げる。農業機械メ

創業という基礎をつけた正義。下請けから脱皮し、飛躍させた健止。新しい価値創造に向けて動き出す健太郎。3代にわたり、新しい光学産業の道を切り開く。

(敬称略)

(この項おわり。松崎